

小口城址公園

親から子へ、語り継ぐ歴史。 かつての小口城に思いをめぐらせて…

かつて小口城があったと語り継がれ、親しまれてきた「城山」。
ひととき歴史を感じながら、ゆったりと歩いてみませんか。

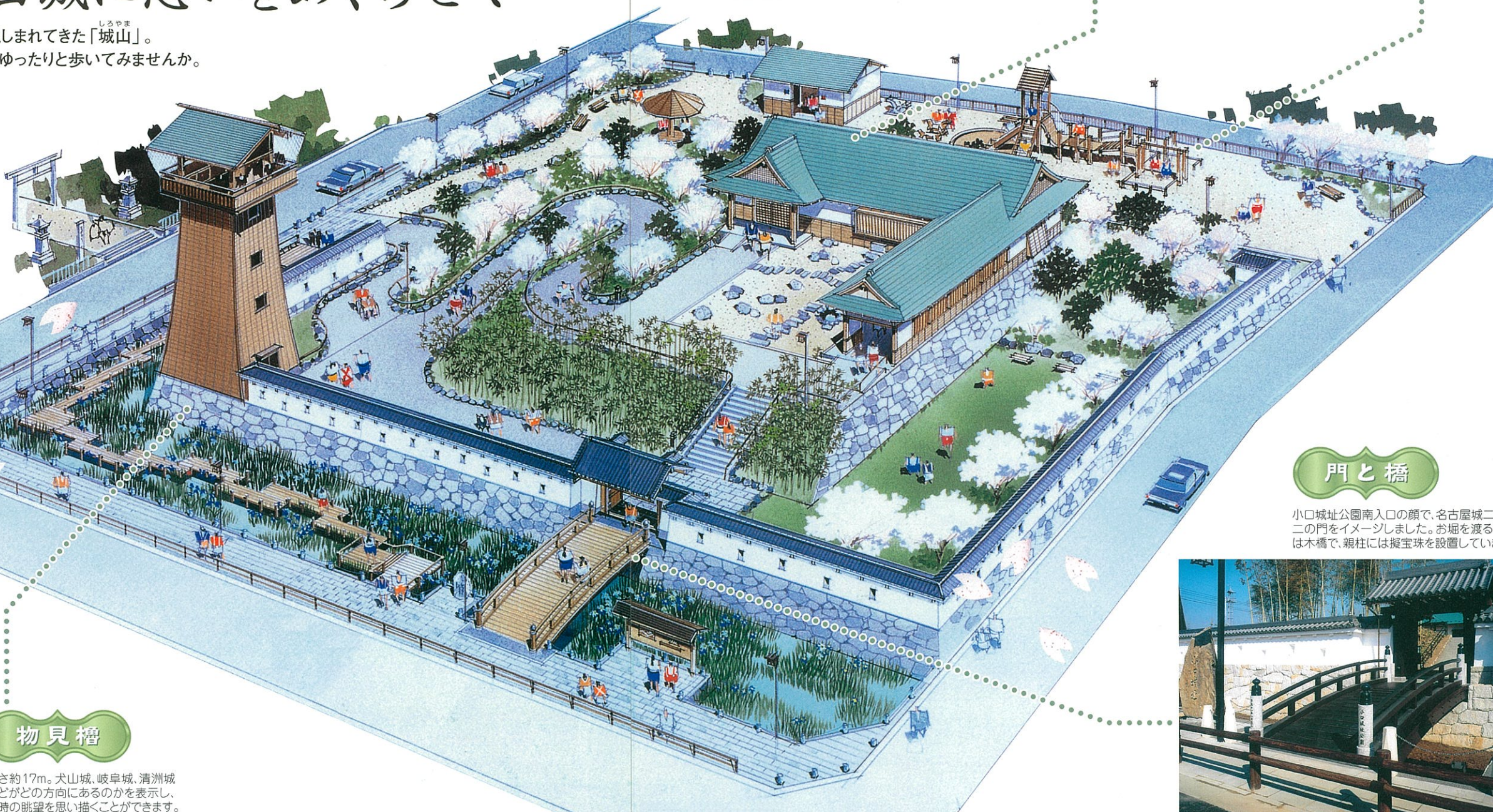


展示棟

小口城の歴史の変遷についての説明や展示、出土品の実際展示などで、小口城についての理解を深めます。小口城と周田の城との位置関係などを模型と映像との組み合わせで楽しくごらんいただけます。

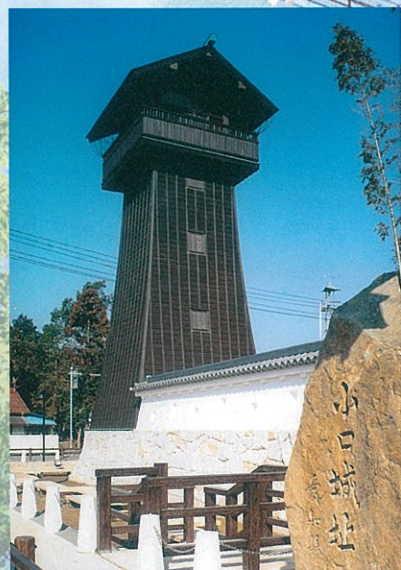
遊具

子供たちが気軽に遊べるよう、戦国時代の砦をイメージした木製遊具や合戦をイメージした馬の動物遊具を設置しています。



門と橋

小口城址公園南入口の顔で、名古屋城二の丸大手二の門をイメージしました。お堀を渡る橋の様子は木橋で、親柱には擬宝珠を設置しています。



物見櫓

高さ約17m。犬山城、岐阜城、清洲城などがどの方向にあるのかを表示し、当時の眺望を思い描くことができます。

公園の概要

公園名／小口城址公園（おぐちじょうしこうえん）
所在地／愛知県丹羽郡大口町大字小口城屋敷敷地内
敷地面積／約3,200㎡

主な施設

展示棟（展示室および渡り）	建築面積157.94㎡
物見櫓	高さ約17m
あずまや	建築面積3.00㎡
門	間口2周半 入口間口1周半
橋	幅3.3m×橋長6.5m
お堀	規模336㎡ ハツ橋一式
遊戯施設	コンピネーション遊具：1基 動物遊具：2基
芝生広場	規模237㎡

小口城と織田氏

小口城は、大口町の北部に位置し、その城域はかなり広く四方に「重砲土塁を巡らした強固な城であったことが、絵図や地誌などでわかります。北東に犬山城、南西に岩倉城、南東に青塚、小牧山の砦というような位置関係にあり、この小口城が軍事的に重要な役割を果たしてきたことがわかります。

小口城は、長祿三年（1459）、織田遠江守広近によって築城されたといわれており、別名「箭筈城」ともいわれ、織田氏の尾張経営の中心的役割を担ってきました。その後、永祿年間（1558～1569）に信長の軍勢に攻略され廃城となったようですが、天正十二年（1584）小牧・長久手の戦いにおいて、一時的に秀吉方の前線基地として再興されたこともありました。政治的軍事的に重要な位置にあったかがうかがわれます。

初代城主である広近は、尾張国守護の斯波氏の守護代であった織田氏の初期の人で、守護代であった岩倉城主の兄・敏広を補佐すべく、小口城を拠点に犬山に木之下城を築城し、美濃の勢力に対抗し尾張北部を治めていきました。広近自身、地方の武将でありながら、かなりの実力者であったらしく、『文正記』によれば、文正元年（1466）、広近は大軍を引き連れ、主君である尾張国守護斯波義廉を助けるために上洛しています。また『親元日記』には、広近が一族と共に將軍家（足利義政と妻の日野富子）に進物を贈った旨が記されており注目されます。また、出家し小口城の近くに徳林寺を再興、更に「万好軒」という隠居所（現在の妙徳寺）をつくり、亡くなるまでここに住んでおり、大口町にとってゆかりの深い人物といえます。

その後、小口城は、岩倉城や犬山城の支配下であつたらしく、さらに信長が小口城を攻略した頃の城主は「信長公記」によれば「中嶋豊後守」となっており、また町内の余野神社には「謹奉…中嶋佐兵衛尉」と彫られた額があることから、十六世紀後半には中嶋氏が小口とその周辺を治めていたと思われる。